

明けまして
おめでとうございます
今年もよろしく
お願い致します



フェニックス

PHOENIX

＜ 発 行 者 ＞

航空安全推進連絡会議 03-3742-9359

航空労組連絡会 03-3742-3251

日本乗員組合連絡会議 03-5705-2770

http://www.kohkuren.org/



職場の問題を解決し働きやすい職場に変えたい

編集部 航空会社の好業績の一方で、職場は人員不足を背景に高稼働による労働強化が一段と強まっています。そうした状況下でも職場の要求表現に向けた果敢な闘いは成果に結びつきました。まずは2017年を振り返り

高稼働による労働強化が強まる航空の現場。外航では日本路線の減便や運休などの見直しによって雇用問題が発生しかねない状況にあります。こうした状況下でも働く者は、果敢な闘いによって雇用と権利、労働条件改善を前進させています。成果をあげた3労働組合のみなさんに闘いを振り返り、何が要求前進の力になったのか、そして今後の課題について話合っていました。

新春座談会

2018年を展望して 私たちの働き方改革

振り返りのような成果がありましたか。
長 CCUの大きな成果は、マタハラ裁判の和解による産前地上勤務制度の改善です。2008年度以降、経費削減策の一貫として改善されていた産前地上勤務制度を、何とか改善したいとの思いで原告は裁判に立ち上がりました。その結果、以前の制度を上回る内容で制度改善が進められています。制度改善が最大の目標だったので、私たちはこの和解を「勝利和解」と受け止めています。職場の要求を組合がつかみ、社会の流れを後押しにして仲間や弁護団と一緒に闘えたことが勝手に繋がったと感じています。原告となった組合員の勇気は欠かせないものでした。業界他社にも良い影響を及ぼせはと思っています。
労働時間管理についても歴史的な成果がありました。ショープアップ(乗務出社時刻)前に業務の準備を行なっていることが恒常化していました。12月1日から一定時間を労働時間とする改善を勝ち取りました。カウントされる時間は国内線15分、国際線30分、実態を照らせばまだまだ改善しなければならぬものではありますが、30年近く要求し続けたことが、職場はもうこんな歴代の先陣方にもこれまでの闘いの成果と喜ばれています。

■主な記事から■

- ▶新春座談会「一人ひとりの行動が大きな成果を」**2面**、**3面**
- ▶JCUI、ソラシドの不当労働行為を申し立て **3面**
- ▶ITF、ブエノスアイレスでグランドスタッフ委員会を開催。航空連代表が参加 **4面**

労働相談は航空連に
03-3742-3251
e-mail/honbu@kohkuren.org

誘導路
2018年は明治維新から150年目。明治をテーマにした様々なイベントが予想されます。NHK大河ドラマもそのひとつ。明治維新の立役者の一人、西郷隆盛を題材にした「西郷(せご)どん」です。明治時代、日本は富国強兵に邁進。戦争の連続で他国をも侵略し、先の大戦では日本人の死者は300万人を超えました。その悲惨な歴史の反省から生まれた日本国憲法。前文で平和主義を謳います。大切なのは、戦争と平和の150年を学ぶこと。手放しで150年を祝う気にはなれません。1月、通常国会が始まります。2018年問題や森友・加計学園問題の解明、「働き方改革」の名の下での労働法制見直しなど課題山積。2月には普天間基地の辺野古移転を争点とする市長選挙が行われます。海外では、英国のEU離脱が正念場を迎えます。政権2年目を迎えるトランプ政権は11月に中間選挙。中東情勢や北朝鮮問題など世界を揺るがす要因はつきません。●航空業界は、2020年の発着枠拡大やオンラインヒック・パラリンピックに向けた準備が重要な年です。安全な職場環境の整備や人材確保など、山積する諸課題の解決に道筋をつける重要な年です。●要求の前進に向け頑張ります。今年もフェニックスを愛読下さい。



「輝く」より普通に働ける社会を

【面からうかがう】
守られる職場、制度の充実、賃金アップ等はもちろん、ワーク・ライフ・バランスが実現する働き方が不可欠だと思います。女性だけでなく男性も含めた雇用問題を改善しなければ、少子化問題の改善が進まないと考えます。多くの社会的な問題を解決するために、労働組合は本来大きな役割を担っているはずですが、労働組合が弱体化していることが、社会全体にも影響していると思っています。

しかし、CCUの要求が自分の要求と一致し、改善は夢ではないことが理解できれば「気がつく人」は必ずいると思います。そのために、CCUの打ち出す政策は、いつも先見の明を持って事実を伝えていくことが必要です。今後先見の明を持ちながら職場の心をつかみ、結果を指していると思います。「CCUな職場や自分を守って」との安心感も必要だと思います。

木谷 ひどい労働条件でフラットにいる人が数多くいます。JPUの例ですが、国内線日帰り乗務を3日間やりその後を員置きせ、さらなる3年延長を勝ち取った56名の客室乗務員の組合員がいます。今年期限を迎えますが、多くの乗務員はこれからもKLMで働き

アジア路線の徹夜便など、本邦に過酷な勤務状況です。JCUに加入して会社に声を上げたいという人も出ています。KLMには2015年6月に、5年の契約打ち切り

日本航空キャビンクルーユニオン (CCU)

副委員長 平岩さん

た。同19条では正社員と同様の仕事をしていたり、これまで契約を更新しているなど、労働者が契約更新を期待することについて合理的な理由がある場合、無期雇用への道が開かれる状況もつづけています。これらの法律を活かすよう、オランダ本国の組合にも雇用継続への支援と協力をお願いします。J

争議解決・職場改善に全力投球

たいと願っています。2013年4月からは労働契約法18条により、契約期間を5年超える者が申請すれば無期雇用に変換できるようにになりました。

外航はその点は遅いかもしれませんが、有給休暇はあくまでも休むとリフレッシュを楽しむためのもので、きちんと消化するように会社が強制的に取得する

結成し解雇に至りませんでした。ひどい状態で働き続けている人、人間らしい生活を送れない人も、普通の生活を奪われる不当解雇も人権侵害です。こんなことが度々繰り返されるように、勝利まで引き続き闘ってまいります。今後は、エミレーツ航空本社に屈しないように、すべての争議解決めざしがんばります。

ひどい状況改善はみんなの要求

編纂部 各社の中期計画などをみると、さらなる業績アップに向けた「意識改革」教育が目立ちます。一方で、労働強化による健康被害も報告されています。職場では問題意識も芽生え、異議申し立ての機運も醸成されつつあるように思います。さてこれからどうしていきましょうか。

編纂部 「働きやすい職場に変えない」は大多数の共通認識ではないかと思えます。フラック的な働き方を止め、最後に、今後の課題や展望をお聞かせください。

編纂部 働かやすい職場に変えない、外航の就業規則や、会社の考え方の良いところを内航でも取り入れて欲しいと思えます。



キャビンクルーユニオン (JCU)

委員長 木谷さん

客室乗務員の個人加盟の組合
外航・LCCなど数社のCAが加盟

様にはいつも温かいご支援ありがとうございます。これからも解雇撤回までようようお願いします。

平岩 労働条件はいろんな側面からの改善が求められます。改善された勤務基準の改善が、働き方の改善を表現しなければ、退職や病欠者の増加を止めることはできません。これは会社課題としていく部分だと思います。弱い立場の人が生き生きと働けるようにすることが大事です。育児・介護を抱える人や深夜制度(22時~05時)の深夜勤務免除で働きの改善にも力を入れています。それには解雇問題の解決は不可欠です。今年こそ解決を実現するために頑張っています。

木谷 JCUは客室乗務員の個人加盟の組合です。各社と積極的に交渉を行い労働条件改善の動きが、会社で限られた動きは、第三者機関にも訴えるつもりです。ソラシドの不当労働行為問題は今後都労委で審議が始まります。傍聴して頂けたらと思います。

編纂部 忌憚のないご意見ありがとうございます。船運は労働条件は安全を支える基盤と断言活動を進めたいです。安全運航のためには人員増・勤務改善は必要です。2018年も引き続き労働条件の向上、すべての争議解決めざしがんばります。

ソラシドは不当労働行為やめよ

JCUが都労委に救済申し立て



記者会見する長尾弁護士(左)、木谷委員長、識訪副委員長

客室乗務員の個人加盟労働組合ジャバキャビンクルーユニオン(JCU)は12月6日、団体交渉で労働組合が勤務改善を求めたことを理由に、ソラシドエアが組合員の成績評価を下げたことは組合活動を理由とした不利益扱い(労働法7条1号)であり、組合活動に対する支配介入(7条3項)であるとして、東京都地方労働委員会(都労委)に不当労働行為救済申し立てを行いました。

本紙既報(323号9月1日付)のとおり、JCUが勤務改善をめぐるソラシドエアと団体交渉を行った際、欠員に備え空港で待機する客室乗務員の数が多すぎることを資料にまとめ、一部を自宅待機に切り替えれば会社経費の削減になると提案。組合提案に責任者は出社するパイロットの人数を認め、「参考に出社するパイロットの人数はソラシドエアが認める」と資料を返して、「参考」にさせてもらう」と資料を持帰りました。

ところが団体交渉から4か月が経った17年3月27日、会社は突然、資料を作成した組合員に嚴重な警告を出し、JCUを批判しました。JCUは、職場要求を改善させてきた組合に危機感を感じ、未払い賃金の件を契機に組合活動を封じ込めようとする圧力をかけたものと考えます。当該組合員は、会社にもネットのある提案して嚴重注意書を受けるのは納得がいきません。これでは組合が活動しにくくなり、職場が改善されなくなり、組合の不正を正し経費削減の提案が低評価。ソラシドエアの経営姿勢が問われています。

ソラシドエアは、JCUの申し立てに抗議し、注意書の撤回を要求しました。5月の団体交渉で提示された回答書には就業規則に抵触する旨の記載がありましたが、就業規則のどこにも該当しません。就業規則違反を印象付けるために意図的に書かれたのだと見られます。その後、7月に本人に通知された人事評価はこれまでの評価を下回る、5段階の下から2番目でした。「嚴重注意書も評価にあたっての一つの要素」との文書も出ています。

JCUの木谷委員長は「会社は、パイロットの人数は会社の守秘義務に該当する」と主張しますが、パイロットの人数は社内パノラマで誰もが閲覧でき開示制限や秘匿性はまったくないと見られます。その後当事者を中心に、労働者にサビヒス残業を申告し、会社は指導を受け謝罪と返金を得ませんでした。低評価はその報復です」とソラシドエアを批判しました。JCUは、職場要求を改善させてきた組合に危機感を感じ、未払い賃金の件を契機に組合活動を封じ込めようとする圧力をかけたものと考えます。当該組合員は、会社にもネットのある提案して嚴重注意書を受けるのは納得がいきません。これでは組合が活動しにくくなり、職場が改善されなくなり、組合の不正を正し経費削減の提案が低評価。ソラシドエアの経営姿勢が問われています。

各国代表が闘いの現状を報告

MROには6か国の労組が参加 長時間労働・民営化など討論

ITFグランドスタッフ委員会報告上

ITF(世界運輸労働・世界154ヵ国759組合・組合員470万人)は12月6日と7日、アルゼンチンのブエノスアイレスで民間航空部会グランドスタッフ委員会を開催しました。同委員会は、スイスポート会議、MRO(メンテナンス)スリベア&オーバーオール会議、空港の組織化などが話し合われました。航空連から赤坂副議長(外航担当)、星崎日航ユニオン(JLU)組合員が参加しました。議題や成果について赤坂副議長に聞きました。

日本の真裏に位置する南アルゼンチン。日本を12月3日出発した一行は米国のニューアークを経由し、ブエノスアイレスのエセイサ空港に着いたのは現地時間の4日11時でした。「成田を突って現地に着くまでに30時間かかりました。現地の気温は27度と夏本場ですが、太平洋に面した海辺の町なので風が心地よく蒸し暑さは感じません。旧スペイン領だったことからスペイン風の建物が並んでいます。歩道のあちこちが壊れています。犬の糞は処理されず、路上を歩行喫煙はまた問題視されています。建物物のなからは欧米並みに禁煙でした。

今回の会議は、12月10日、各国の闘いの現状が報告されました。会議では参加者から、

写真上 グランドスタッフ委員会全体会議
写真左 航空連・赤坂副議長(左)、ITF民間航空部会書記・モチヨシ氏(中央)、JLU・星崎さん



写真上 グランドスタッフ委員会全体会議
写真左 航空連・赤坂副議長(左)、ITF民間航空部会書記・モチヨシ氏(中央)、JLU・星崎さん

告されました。特徴的だったのは、LCCの労働条件を引き上げたアルゼンチンAPPAからの報告でした。APPAエドワード書記長は「アビオンカ(アルゼンチンのLCC)と交渉し、LCCの労働条件をAPPAの水準にそろえることができた」と報告しました。APPAは南米の航空各社と交渉し勝利を収める成果をあげています。

航空連からは、「パイロット、客室乗務員、整備士から空港勤務者など幅広い職種労働者で組織したことで日本人旅客が減少し、デルタ航空やユナイテッド航空が路線廃止や縮小を行うっており、日本人スタッフの雇用への影響が懸念されている」と、組織状況と外航労働者をめぐる現状を報告しました。

6日のMRO会議には日本・インド・ルーマニア・アルゼンチン・カナダ・アメリカの労組が参加。長時間労働の蔓延、民営化による労働条件の悪化、重整備に関する国際規格の必要性が話し合われました。出席した星崎さんは、「こんなに飛行機が進化した、故障が少なくなったとしても整備士が不要になるわけではなく、故障がないから整備士が間に合う必要がない」というわけではない、というところを確認できた」と語りました。

(次号に続く)

第37回航空政策セミナーのご案内

- 日時 2月3日(土) 12:30~17:30
- 場所 南部労政会館 JR山手線「大崎駅」下車徒歩3分
- テーマ
1. 航空各社の経営分析
 2. グラハン・客室乗務員の労働実態
 3. EUの労働規制

問い合わせ 航空連事務局 03-3742-3251



輝き色あせない！ 永遠の名作

君たちはどう生きるか

原作 吉野源二郎 漫画 羽賀翔一

読書のススメ

本屋で売れているといっている漫画が、「えーこの本、仕事帰りの大みくろはいいな、ほかに読んでおきたい」とか、お気に入りの漫画を手に取って読んでみる。お気に入りの漫画を手に取って読んでみる。お気に入りの漫画を手に取って読んでみる。

と物語が進みます。この本のベジカカーには、80年の時を経てついに漫画化しとあります。80年前といえは、1937年です。太平洋戦争が始まったばかりの年です。ということ書かれたらに思われませんか。戦争に関する記述はありませんが、この時代の生活の厳しさが文中から伝わってきます。中学生の小林君と親戚のおじさんが近所暮らしをして

ながら小林君の成長をながめます。昭和30年代までは、私も曾々はお友達だったように思います。当時、父親が失業して母親が工場現場で働く姿を小学校帰りに見たことは、遠い過去になりました。普通の子供で力も弱く、勇気も足りません。小林君が成長するの、この本を読んで現代の中学生がどう感じるかはわかりませんが、私は主人公が、時代が変わったドラえもんのように、のびた君にもなりたい。そして、平成のドラえもんは「マホ」なのかもよ、若者はこれからどう生き抜くのでしょうか。

けいこむ

最近の冬の風景で、12月以降特にクリスマスから年末年始は夜になると、どこでもLED照明が華やかに彩られます。きれいですね。空港も競い合っているような、イベントで華やかです。ロビーを歩いているだけでもちょっとワクワクします。

さて、2017年が終わりあらたな2018年の始まりです。円安の影響もあり、外国のお客様がたんさん日本を訪れてきています。航空各社の営業状況も引き続き好調です。3年後の東京オリ

ンピック・パラリンピックに向けての路線拡大も計画されています。2月には、お隣の韓国で冬季オリンピックも開催されます。スキーやスケートなど多くの競技でテレビから目が離せない興奮が待ち遠しくもあります。近いから直接見に行かれる人も多いかもしれません。

航空で働く私たちの目の回りのような忙しさは年末年始後も続きそうですね。忙しさが賃金に反映されれば頑張りたいがあるのですが、最近、官製春闘なんて言葉が政府がベトナム水産を打ち出していますが、2018年は、暮らし職場改善で、ベトナムと要